

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2023年3月24日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日	備考
1	<p>【多核種除去設備処理水希釈放出設備の測定確認用タンクの水位低下について】 当社運転員が免震重要棟の集中監視室にて、多核種除去設備処理水希釈放出設備の測定確認用タンクにおいて、循環・攪拌運転をしていない別系統(タンクA群)の「A10タンク」の水位が約10cm低下していることを確認。 タンクA群の出口弁(手動弁)を閉操作し、それ以降、「A10タンク」の水位低下が止まったこと、タンクB群の閉じ込め機能が確保されたことを確認。 また、A群の他タンク(A1～A9)の連結弁は全閉であり、水位変動がないことを確認。 「A10タンク」出口弁を閉操作したことでタンクの水位低下が止まったため、「A10タンク」の保有水が、タンクA群の隔離弁である電動弁(閉状態)からシート漏えいし、タンク群を循環している配管を通じてタンクB群に入ったものと推定。 なお、堰内外への漏えいは発生しておらず、外部への影響はない。 今後、当該弁を点検、および、再発防止対策を検討。</p>	G II	3月19日	2023年4月13日 グレード変更 G III→G II 理由 社会的関心が高い事案で、かつ重要な設備であるとの判断により、グレードをG IIへ変更した。
2	<p>【雑固体廃棄物焼却設備の焼却炉(A)入口および二次燃焼器(A)入口温度計保護管の損傷について】 協力企業作業員が、雑固体廃棄物焼却設備の点検中に、焼却炉(A)入口および二次燃焼器(A)入口に設置されている温度計保護管を確認したところ、保護管が損傷していることを確認。 原因は、廃棄物に含まれる硫黄分や低融点金属のナトリウムなどに起因した腐食減肉によるもの。 なお、温度計自体の損傷はなし。 現在、雑固体廃棄物焼却設備は停止しており、この間に保有している代替品に交換予定。</p>	G III	3月17日	